

産学官の連携による海洋・港湾技術の早期実用化にむけて
— 第2回海洋・港湾技術実用推進協議会の開催概要、
及び直轄工事現場における実証試験の開始について —

先般、平成29年3月10日に「**海洋・港湾技術実用推進協議会(第2回)**」が開催され、平成28年度京浜港ドックでの実証試験結果に対する意見とともに、平成29年度も引き続き京浜港ドックでの一般公募を実施することが確認されました。(別紙1)に本協議会からの主な意見を報告致します。

一方、関東地方整備局では、港湾空港技術研究所と「**i-Constructionの推進**」について、共同研究協定を締結し、海洋・港湾分野における新技術の早期実用化を目指しているところですが、今般、同研究所が開発した視界不良海域における可視化を目指す「**水中音響映像システム**」の**実証実験**を、東京港の直轄工事現場で本格的に実施することになりましたので、お知らせします。本実証試験は4月以降を予定しておりますが、概要については(別紙2)のとおりです。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ
神奈川県政記者クラブ・横須賀市政記者クラブ・その他専門誌

お問い合わせ先

(協議会について)

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 のぐち たかとし 野口 孝俊 なかがわ ひろし 中川 大

電話 045-211-7420 FAX 045-211-0204

(実験内容について)

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

企画調整・防災課 のだ いわお 野田 巖 よしだ ゆきひで 吉田 行秀

電話 046-844-5040 FAX 046-844-5072

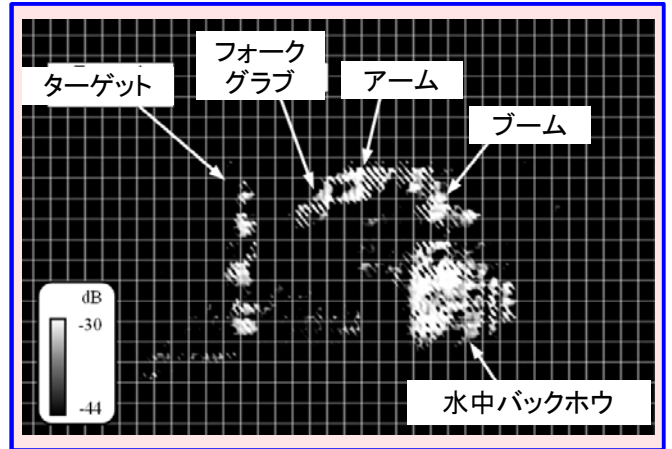
別紙1

内容	協議会からの主な意見	
協議会の 取り組み 全体	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 京浜港ドックという実証フィールドおよび現場の実海域フィールドの両方で試すことのできる有意義な取り組みである。上手く利用すれば現地への適用がスムーズとなる。一方、鍵になるのは成果の取扱いであり、引き続き検討が必要である。 ◎ 京浜港ドックをより使いやすい・より使いたくることが大事。ユーザーとのキャッチボールが必要。 ◎ 情報を共有することが大事である一方、海洋技術では実施の事実すら公表を避けたい技術の可能性もあるので、秘匿性を確保する仕組みはできないものか。 ◎ 来年度の京浜港ドックの一般公募に向けて、本年度選定者から試験条件に対するコメントを提供した方が良い。 	
提案者	課題名	協議会からの主な意見
一般社団法人 海洋調査協会	航路啓開における測深・海底状況把握技術（水中物体の位置と形状確認のための計測システムの運用）	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 音響機器のカタログはベストデータを記載していることが多く、実際使用する場合に性能が違ふことがある。今回の様なベンチマークテストはユーザー側にも開発者側にも有効である。 ◎ 今回の試験条件では、音響的に厳しい特殊な環境ともいえるので、成果報告では一定条件における成果であると明示する必要がある。 ◎ 今後の開発・利用の両面から有用な試験であり、今後も継続を望むものである。
朝日航洋 株式会社	航空レーザー測深機と水中点検ロボを組み合わせた海洋・港湾における有用な調査技術の実証試験	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 既存の陸上を含める改修・補修工事などでは陸上部と海中部の連続データを要求されるが、これらの技術による有用性は高いと思われる。
五洋建設 株式会社 技術研究所	水中部のひび割れ補修に関する実証実験	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 従来、水中補修の技術は様々な者が断片的な情報を持っている状況が多かった。京浜港ドックでの実験が中立性や公平性を保つ標準的な試験方法として確立できれば技術を比較することも可能となる。
五洋建設 株式会社 技術研究所	水中i-Constructionのための水中ソナーによる出来型管理の検証	<ul style="list-style-type: none"> ◎ このように実験を経て技術が進展していくことは望ましいことである。 ◎ 本技術は特定者に限定された技術とならないように、標準技術として認めて頂きたい基礎の技術であり、オープンになるべきデータと思われる。

別紙2

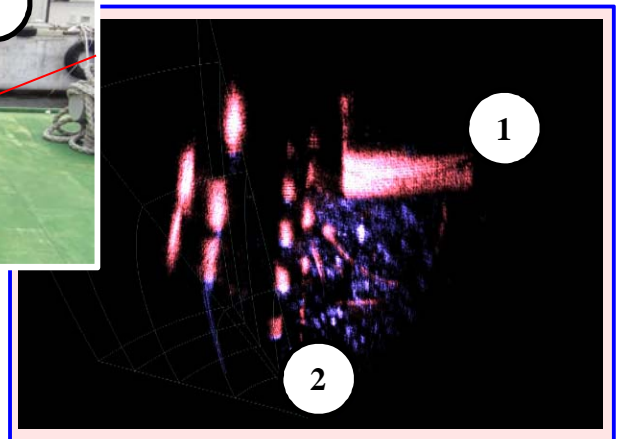
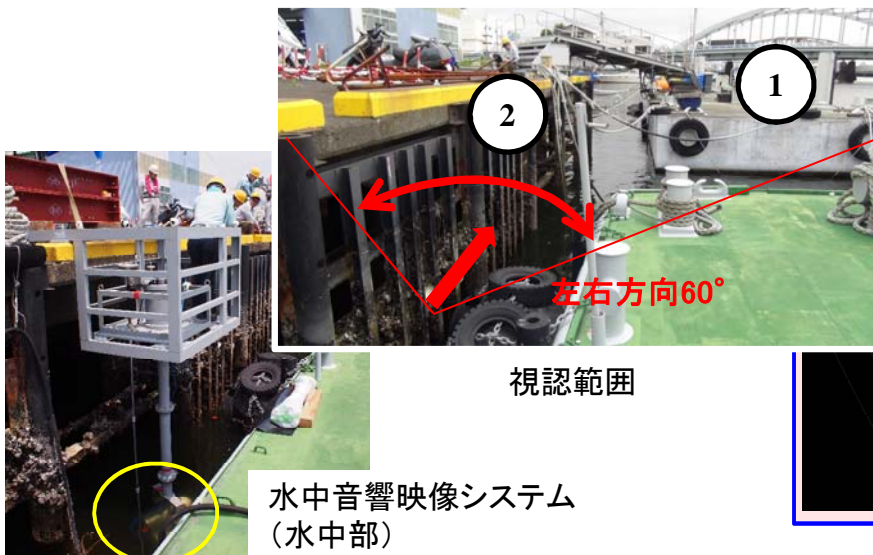
【実海域実験に至るまでの事前検証】

- ① 平成27年度は京浜港ドックにおいて、超音波で水中の物体を視覚化する音響カメラの水中視認の検証を実施。



収録映像の例

- ② 平成28年度は関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所において、可視精度を向上させた新型カメラの精度確認を実施。



収録映像の例

【今回の実海域実験】

東京港において石材で建設された基礎マウンドの形状寸法を水中音響映像システムで確認し、超音波で海の深さを測る音響測深機との精度比較を実施する予定。



国土地理院の電子地形図(タイル)に位置情報を追記して掲載

